

飼料用粃米および食品製造副産物の 泌乳牛への多給与技術

近年は、飼料自給率向上の一環として、飼料用イネや飼料用米の活用が推進されています。しかし、飼料価格の高騰や高止まりが続いており、更に飼料費の削減を図るために、新たな飼料資源の利活用が急務となっています。そこで、群馬県畜産試験場では、飼料用粃米や食品製造副産物である茶飲料残渣、トウフ粕およびビール粕を利用する安価な飼料原料を用いた乳牛への給与技術を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 飼料用粉碎粃米やトウフ粕、茶飲料残渣等の食品製造副産物を圧片トウモロコシや圧片大麦の代替として、濃厚飼料中に乾物比で85%混合して調製する発酵TMR試験区2区(粉碎粃米32%区および35%区)を設け、ホルスタイン種泌乳中後期牛6頭を供試し、各区2頭を配置して1期28日(馴致21日間、本試験7日間)、3期のラテン方格法で飼養試験を行いました。
2. 圧片トウモロコシおよび圧片大麦を粉碎粃米や食品製造副産物で代替しても乾物摂取量や飼料の消化率に大きな変化がなく、飼料摂取への影響はありませんでした。また、第一胃内容液のpHの低下によるルーメンアシドーシスの心配はなく、血液生化学性状も正常値の範囲内にあり、乳牛の健康に問題はありません。
3. 乳量および乳成分に差がないことから、飼料用粃米の価格が70円/kg以下であれば、圧片トウモロコシや圧片大麦より飼料費を低減できます。



写真1 トウフ粕



写真2 茶飲料残渣



写真3 発酵TMRの給与状況

☆ 活用面での留意点

国産飼料の多給を可能とする乳牛用発酵TMR給与メニューとして利用できますが、短期間の飼養試験結果です。詳細は、群馬県畜産試験場・酪農係 浅田 勉(TEL: 027-288-2222)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)